源氏物語

紫式部

　げなる大人二人ばかり、さてはべぞ、でり遊ぶ。中に、十ばかりにやあらむと見えて、白き、などのなえたる着て、走り来たる、あまた見えつる子どもに似るもあらず、いみじく見えて、うつくしげなるかたちなり。は、を広げたるうにゆらゆらとして、顔は、いと赤くすりなして立てり。

－32－

　「何事ぞや。童べと立ちるか。」とて、の見上げたるに、少しおぼえたるところあれば、子なめりと見。「の子を、が逃がしつる。の内にこめたりつるものを。」とて、いとくちしと思り。